

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100518
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイのほほえみ松山
所在地	松山市余戸南4丁目4-2
自己評価作成日	平成21年11月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のグループホームとして、利用者ひとり一人が一地域住民として過ごせる様、地域とのつながりに力を入れています。又、家族様との繋がりも深める為に行事の案内やホーム内の生活の様子がわかる写真やお手紙をお送りして少しでも当事業所にお越しいただけるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の町内運動会では、管理者等がリレーの選手で活躍されたり、ユニット長は、地域の自治会にも参加して、地域とのつながりを強めておられ、この一年間、事業所全体で地域との関係作り力を入れて取り組まれた。音楽関係の団体のボランティアの方の訪問もあり、最近ではトーンチャイムの演奏を聞かせてもらったり、クリスマス会等には踊りを披露してくれるボランティアの方が来てくださる予定になっていた。

今年から季節ごとに発行されている事業所通信「ほほえみ通信」は、ご家族や地域の方に届けられており、職員の紹介やボランティアの方が来られた際の様子写真入りで載せてある。「深い良い言葉のコーナー」には、利用者の発言を取り上げて、そのエピソードが載せられている。又、利用者個別に「ほほえみ日記」を作成して、ご本人の行事時等の様子等をご家族に伝えておられる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ニチイのほほえみ松山

(ユニット名) マーガレット

記入者(管理者)

氏名 松下 美保

評価完了日

2009年11月13日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼にて毎朝当社の理念を唱和し職員全員で理念を共有し意識して日々の実践につなげている。	
			(外部評価) 職員は、法人全体の理念を毎朝の朝礼で唱和されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者が地域とつながり安心した暮らしを続けられるよう地域行事の参加や利用者と地域を巻き込んだ催し物を開催し交流を図ったりしている。又、地域役員から構成され行われている会議にも参加し地域の一員として協力したり、助けて頂いている。	
			(外部評価) 昨年の町内運動会では、管理者等がリレーの選手で活躍されたり、ユニット長は、地域の自治会にも参加して、地域とのつながりを強めておられ、この一年間、事業所全体で地域との関係作りに力を入れて取り組まれた。音楽関係の団体のボランティアの方の訪問もあり、最近ではトーンチャイムの演奏を聞かせてもらったり、クリスマス会等には踊りを披露してくれるボランティアの方が来てくださる予定になっていた。中学生の職場体験も受け入れておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方からのグループホームについての相談、質問に答えながら認知症の方への理解や対応の方法等を伝えている。今後は認知症やキャラバンメイトの講師資格を有す職員によるホームや地域施設での活動を通し認知症についての理解や関心を広めて行きたいと考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			地域の理解と支援を得る為の貴重な会議として、当事 業所の取り組みを知って頂いたり、サービスの実際、 利用状況、外部評価当等の報告をし、意見内容をサー ビスの向上に活かしている。	
			(外部評価)	
			今年10月に法人内のニチイグループの合併があり、 会議時に料金改定や食事提供の変更等の説明をして参 加者に意見を聞かれた。又、事業所で行う「ほほえみ 祭り」や「5周年イベント」を会議として、会議メン バーの方等と利用者が交流する機会を作っておられ る。他事業所の運営推進会議に出席されたり、他事業 所のクリスマス会に利用者とともに出かける予定と なっていた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)	
			定期的に市町村窓口に訪問し、現場の実情を伝えたり 情報を収集したり、直面している課題解決に向けた話 し合いや対応等についてアドバイスを頂く様にしてい る。	
			(外部評価)	
			地域包括支援センター主催で、年2回、地区のグルー プホームの集まりがあり、参加して意見交換されてい る。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしな いケアを実践している。又、身体拘束廃止委員会を設 置しチーム全員で話し合いの場を設け正しく理解する 様に周知している。	
			(外部評価)	
			ユニット会議時に事例等を用いて、身体拘束や虐待に ついて話し合い、日々のケアについて確認するよう になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議や勉強会で高齢者虐待についての理解を図り職員全員の問題として捉え日々のケアの中で注意喚起を行う。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度概要等の説明、申し立て手続きに関する専門機関や相談窓口等が紹介出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 詳細については契約時に詳しく説明を行っている。他、改定等の際は、家族会又個別に連絡をし不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を得られるよう努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に御意見箱を設置したり、運営推進会議にて利用者様や家族様の意見、要望をサービスの質の向上に繋げていくよう努めている。随時相談できる環境作り、体制を整えている。 (外部評価) 今年から季節ごとに発行されている事業所通信「ほほえみ通信」は、ご家族や地域の方に届けられており、職員の紹介やボランティアの方が来られた際の様子が写真入りで載せてある。「深い良い言葉のコーナー」には、利用者の発言を取り上げて、そのエピソードが載せられている。又、利用者個別に「ほほえみ日記」を作成して、ご本人の行事時等の様子をご家族に伝えておられる。	さらに、利用する側であるご家族や利用者のご意見はサービス向上に向けての貴重な声でもあることから、ご家族への報告をすすめていかれながら、事業所のケアサービスへのご希望やご意見を引き出していかれてほしい。又、ご家族の心情も踏まえ、ご家族が心配や不安に思っていること等を聞き取るような機会も作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会議やホーム会議を開催し利用者の方の状況や実情を知っている現場職員の意見を活かしより良いサービスの質の確保や向上に活かしている。	
			(外部評価) 事業所全体の会議やユニット会、カンファレンス等、職員が集まって話す機会が月に3回ほどあり、管理者等は、法人等で決まったことを伝えたり、業務のことやケアの課題等について話し合っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 定期的に幹部会を開催し、職員個々の実績、勤務状況を把握し定期的に個別面談等を行い各自が向上心を持って働くよう働きかけている。又実績に応じてのキャリアアップ制度等を取り入昇給にも反映出来るやりがいのある職場環境作りを行っている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム会議、各ユニットでの勉強会を開催し職員が学ぶ機会を設けたり他事業者、社協主催等の研修への参加を促している。研修後はホーム会議で報告を行い職員全員に周知している。又、個別に技術指導や知識・判断基準について伝え職員ひとり一人の質の向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 時間を作り、他事業者への見学を行っている。又運営推進会議への相互訪問も出来る機会を増やしたり、同業者との情報、意見交換が出来る連絡会等にも参加している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階にて家族様から不安、要望等についての聞き取りをおこなっている。職員が馴染みのあるお話をしたりするなど多く関わりを持つ事で不安の軽減に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安や気になることは無いが、こちらから呼びかけたりする事で相談しやすい環境作りに努めている。又、訪問時や電話にて利用者の方の近況報告、ホームでの生活状況等をお伝えして安心していただくよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の実情や要望をもとにまず必要な支援を見極め個々にあったサービスを提供する。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の得意な事や出来る事は共に行ったり、お願いし共に過ごし支えあう関係作りに努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活を共に支えあう為にお互いの立場を理解しよりよい関係が築けるように配慮し支援する。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 土日祝日等関係なく面会できる体制を整えている。又行事の案内を家族を通し行ってもらったり馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。 (外部評価) 居室にご家族の携帯電話の番号を貼っておられる方がいた。お友達が会いに来てくれる方もあり、おしゃべりを楽しまれる際には、職員がお茶をお出ししている。ご兄弟に年賀状を出す方には、職員が日ごろの様子を書き添えることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に食事を摂ったり共有のスペースにテレビ等を置き利用者同士のコミュニケーションをとれる様に支援している。又、各階合同の催し物を開き交流を深める機会を作っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて情報を伝えたり、近況についてもお伺いする時間を作る等し相談支援が出来るように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の思いや希望・意向を聞いて理解するように努め望む暮らしが出来るよう支援している。 (外部評価) 利用者とのかかわりの中で得た情報は、職員の申し送り等で伝えるようにされている。ユニット長は、利用者に馴染みの俳優の絵をクイズ形式で、廊下に掲示して話を聞くきっかけにされている。	現在、事業所では「利用者ゆっくりかかわる時間が少ないのではないか」と感じておられる。又、「利用者とのどのような会話をしたらよいか」「どのように声をかけたらよいか」と悩んでおられるような職員もある。利用者個々とかかわるきっかけ作りを工夫されたり、利用者のお話を引き出したり、関わり方や場面作りの工夫を重ねていかれ、利用者個々の思いや意向の把握に努力され、日々のケアにつなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の馴染みの暮らし生活歴を大切にし利用者の望む生活をひとり一人のペースにあわせて支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のバイタル測定や表情会話等から心身状態を把握するよう努めている。又、利用者の生活のペースをひとり一人支援し、自由にかつ生きがいをもってもらうよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			更新時、退院時、状態変化の都度見直しを行いより良い介護計画の作成に努めている。又、家族様、利用者の要望を聞き入れ介護計画に反映させている。	
			(外部評価)	
			入居時に、ご家族やご本人から生活への意向をお聞きしている。ケアマネージャーが、職員の意見や気付きを聞き取り、利用者の様子等も見て介護計画を作成されている。法人の「週間サービス計画表」には「排泄・尿パット確認」等、時系列で職員が支援する内容が記入されていた。	さらに、ご本人やご家族が求めておられる生活への希望等をお聞きして、それらを十分に採り入れた介護計画の作成に取り組まれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の生活の様子を個人記録、管理日誌に記入しその気づきや結果を職員間で情報を共有して日々のケアに活かしている。又カンファレンスにて情報を共有して介護計画の見直しに反映させている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者の状況やニーズに応じた事業者との連携を行い福祉用具等の提供相談を行っている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティアや民生委員を始め、町内の協力を得て地域行事や消防訓練等を行ったり利用者ひとり一人の暮らしを支えられる様取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 当事業所の協力医療機関等の説明をし同意納得を得た 上で適切な医療を受けられるように支援している。又 提携医と24時間いつでも報告・連絡・相談を行える体 制を整え本人、家族に安心していただけるよう努めて いる。	
			(外部評価) 利用者個々のかかりつけ医にご家族が付き添い、受診 するようになってきている。ご家族の都合によっては、職 員が受診に同行されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 往診時に日常の健康管理や医療活用の支援をしてい る。又、日々の関わりの中での気づきや状態変化等 には適宜に提携医に相談し必要に応じ受診できる体制 を整えている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院による不安をなくし安心して治療がで きる様に定期的に入院先へ訪問し病院関係者との情報交 換や相談に努めている。入院する際は、本人のストレ スや負担を軽減する為に情報の提供を行い、早期退院 に向け医療機関との連携に努める。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ早い段階に本人・家族等との話し合いを行 い本人・家族の意向を理解し確認をとるように努めて いる。又、段階に応じた説明と家族や医療関係の意向 を確認しながら対応、方針の共有を図るようにしてい る。	さらに、ご本人の重度化や終末期のあり方についてご 家族が不安や心配に思われていることはないか、聞き 取ってみようような機会とされてほしい。事業所の方針 等を示して、ご家族の希望等もお聞きしながら、事業 所で「できること・できないこと」等について、ゆっ くり話し合ってみてほしい。
			(外部評価) 入居時に、利用者ご家族に医療が必要になったら病院 に入院となることを説明されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に応急手当講習を消防署指導の基に行い急変時や事故発生時に備えている。又、地域主催の応急手当講習にも参加し技術と知識の向上に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署立会いのもと、避難訓練を行っている。又、消防署よりビデオを借りての勉強会等を行っている。 (外部評価) 避難訓練を実施し、消防署の方に「職員が一人の時には利用者をひと所に集める」ということを教えていただいた。いざという時には、事業所と距離が近いところに住む職員が駆けつけることになっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室での生活や個々に関する情報等ひとり一人の尊重とプライバシーが確保できる様、言葉のかけ方や対応の仕方について話し合いの場で意見を交換したり確認をし日々のケアに活かすように努めている。 (外部評価) 管理者は、職員が利用者に対して気になる対応をしていた際には、顔を見ながら注意するようにされている。ユニットリーダーは「認知症に関係なく、人としてかわることを大切にすることを職員に伝えておられる。調査訪問時、職員の利用者への接し方や対応には、配慮が必要と思われるような場面が多々見られた。	現在、法人のヘルパー2級講習を受講後に就職された職員も多くおられる。さらに、職員を育てていくような取り組みが期待される。又、利用者へのかかわり方や笑顔を大切にされる等、職員が作り出す雰囲気を利用者にとって居心地のよいものであるか、ということを利用者の立場に立って考えてみてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で本人が希望の表出や自己決定できるよう日常的に声掛けを行い自己決定の機会を増やすように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ひとり一人の生活のリズムに応じ、日常生活等に可能な限り本人の希望に沿って支援できるように、日々柔軟な対応を心掛けている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室等の利用や個々に応じた希望にも添えるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて、共同で食事を作ったり、ホーム庭で育てた野菜の収穫を一緒に行ったりする機会を設けたりしている。 (外部評価) 事業所では、今年7月から食事作りの形態を変更されており、これまでは食材の宅配サービスを利用されていたが、7月からは、食材の買い出しから調理まで職員と利用者で行うようになっていた。庭の畑の野菜等も使っておられる。管理者は利用者が買物に行く機会が増えたと話しておられた。食事はおかずを3品は作ることとされている。職員はお弁当を持参し、個々が時間をずらして食べるようにされている。	現在、食事を作る際に味見をされているが、職員は利用者と同じものを食べる機会は少ないようである。ユニット長は「利用者とともに生活する」ことを大切にされていることから、利用者と同じものを食べながら、ともに楽しむような機会を増やしていかれてはどうか。又、利用者ご本人のお誕生日の食事等も工夫されてみてはどうか。法人とも相談しながら取り組みをすすめていかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に摂取量を記録し、一人ひとりの状態に合わせた支援が出来るように工夫している。栄養状態や水分確保にも提携医への報告・相談を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方は、毎食後に声掛けにて呼びかけし、介助の必要な方は誘導、一部介助にて口腔ケアを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	個々のレベルに応じ、全介助が必要な利用者も目標を定め少ない回数よりトイレでの排泄を習慣化し生きる意欲や自身の回復、身体機能の向上を目指しトイレでの排泄支援を行っている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	日々の排泄チェックを行い、飲食物の工夫や運動やトイレでの排泄機会を増やすことで予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	可能な限り利用者の希望があれば毎日でも入浴できるように支援している。入浴時間も定めることなく本人の意思でゆっくりと入れるように支援している。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	個人の生活のリズム、体調にあわせ休息が出来るよう支援している。又、夜間には安心して眠っていただけるよう照明や騒音等にも配慮している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用量等については受診記録にいつでも職員ひとり一人が確認できるようにしている。又服薬していただく際にはその都度二名で確認を行い、薬一包一包に名前と錠剤の数を記入し対応している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中から個々の状態や関心に応じた環境作りを行いそれぞれが役割を持ち張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子等全介助が必要な方も車にて普段の買い物へ出かけていただくよう心掛けている。又バスなどを利用しての外食も行っている。家族様の協力が得られる方は、家族での外出や外食を行えるよう支援している。 (外部評価) 職員手作りのお弁当を持って公園に出かけることもある。又、職員は、日々の食材の買物に利用者を誘っておられる。車椅子を利用されている方を近くのスーパーに買い物にお連れした際には、ご家族に喜ばれた。	さらに、利用者個々の懐かしい場所や行ってみたいところを探って、出かけてみるような取り組み等もすすめてみてはどうだろうか。又、外出支援については、ご家族の希望等も聞き取ってみるような機会も期待される。利用者が外出できるような機会を増やしていくために、外出のきっかけ作りについても工夫されてみてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預かりしているお小遣いから個々に応じて対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が自由に電話をかけられるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間に湿度温度計を設置し利用者が快適に暮らせる様、湿度・温度管理を行っている。又壁面に共同で制作した作品を展示したり共用スペースの空間作りを行っている。 (外部評価) 事業所は、掃除に力を入れておられ、おやつ後や食事後に職員が掃除をされている。調査訪問時には、25日に行われる予定のクリスマスパーティーの飾り付けがされており、天井には折り紙で作った輪連が飾られており、クリスマスソングが流れていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室の空間を用意し自分の好きな場所で過ごしていただいたり利用者同士が過ごせるよう工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や本人が落ち着く部屋のレイアウトを始め、好きな絵を壁面に飾ったり、お気に入りの花等を育てたりし居心地よく過ごせるよう支援している。 (外部評価) 居室にテレビを置いている方もあり、お好きなテレビを見ている方もあった。ご家族が来られた際に使用されるソファやご家族の写真等もあった。造花の花を飾っておられる方もいた。ご自宅から持って来られた鏡台で髪を整えたり、身なりを整える方もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下ですりやトイレ浴槽ないにも安全かつ自立した生活が送れるよう配慮、工夫している。	